

ミッドウェー入港阻止・核持込糾弾! 6.4 横須賀現地闘争を貫徹



6月4日夜、青年部を中心とした 勤労千葉 150名の部隊は、ミッドウェー入港阻止・核武装化阻止の決意も固く、雨をもついて横須賀現地闘争を戦術的に貫徹した。

公然たる核基地化・核武装への道を許さない!

核空母ミッドウェー入港阻止・核持込込み糾弾六・四横須賀現地闘争(社会党・総評主催)にわが勤労千葉は、青年部を中心に一五〇名の隊列で参加し、権力・機動隊のものしい弾圧と警戒を断固としてはねのけ、集会・市内デモを貫徹した。

アメリカ・レーガンによるミッドウェー強行入港日本への公然たる核持込込み・日本の核基地化と鈴木反動内閣の「非核三原則」の空洞化↓日本の核武装化攻撃に対して、われわれは、この六・四横須賀現地闘争を大きな出発点としてさらに闘いを強化しなければならない。

核空母ミッドウェー入港に怒りの決起

日米軍事同盟をうたった日米共同声明以降つぎつぎと日本への核持込込みの事実が暴露される中で、核持込込み抗議・基地撤去・日米軍事同盟反対の闘いが巻き起こっている。

横須賀では、市民の六〇パーセントがミッドウェー入港に反対している状況の中で、この間、全国で軍事大国化・核武装化阻止の闘いがくりひろげられている。

六・四横須賀現地闘争は、核空母ミッドウェーの強行入港をまえに、地元横須賀地区労・神奈川県評傘下の労働者をはじめ関東各県より九千六百名が参加して闘い抜かれたのである。

わが勤労千葉は、この六・四横須賀現地闘争を日本への核持込込み核基地化と日本の核武装化を許すのか、否かの重大な闘いとして位置づけ、全力で決起し闘い抜いた。

六月連続闘争の爆発で、戦争と改憲攻撃に対決しよう

アメリカ・レーガン政権は、核空母ミッドウェーの強行入港をはじめとする核持込込みの暴露によって日本への公然たる核持込込みの承認をせまるとして、一層露骨に日本を核攻撃基地として強化しようとしている。

日米共同声明において「ソ連脅威論」をもって日米軍事同盟の強化をはかることを明確化し、際限のない軍拡と戦争政策にうって出ることを宣言したのである。

一方、鈴木反動内閣は、こうしたアメリカ・レーガンの核持込込みの公然化に対し、核空母ミッドウェーの入港を歓迎し、「非核三原則」の空洞

81.6.6

No. 758

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五・六(公電)〇三三二七二〇七



化をもつて核持込込みを既成事実化せんとしている。こうした攻撃のすべてが、広はんな労働者人民の反戦・反核意識をたたきつぶし、日本の核基地化・核武装化へつき進まんとするすさまじい攻撃にほかならない。

われわれは、第二・第三の「ヒロシマ」「ナガサキ」の悲劇をくりかえしてはならない。

われわれは、勤労「本部」スト破り集団の反動性とベテラン性を徹底的に暴露・弾劾し、六月連続闘争を断固闘い抜こう。

六・五津田沼拠点スト前夜集会圧倒的に成功

六・四横須賀現地闘争に決起した青年部一五〇名と呼応し、津田沼拠点において、ミッドウェー寄港阻止・核持込込み反対・仲裁裁定即時完全実施スト前夜総決起集会が開催された。集会には、地元津田沼支部はもとより、蘇我・新小岩・幕張・千葉転支部の組合員二一〇名が結集し、圧倒的熱気のなかでかちとられた。

各支部代表者の発言は、仲裁裁定未実施、核持込込みの許されざる現実に対し、今こそ「労働者人民は決起すべきだ」と怒りを体現し、さらに新たな勤労「本部」反動分子の組織破壊攻撃を粉碎しきることを確認し、集会は大成功のうちに勝ちとられ、翌五日の、ミッドウェー寄港阻止減産闘争の貫徹へとひきつがれたのである。